

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4091700049		
法人名	社会福祉法人 寿川会		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	〒822-0006 福岡県直方市上境1595番地1	Tel 0949-22-6855	
自己評価作成日	平成29年7月1日	評価結果確定日	平成29年09月08日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	平成29年07月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然豊かな立地条件を生かし、管理者が設計から関わり、入居者が快適な生活が出来るようにこだわったグループホームです。若葉の新緑を見、小鳥のさえずりを聞いて、一年の四季を実際に体感できる環境です。外の青笹を見て風の強さ、日差しを感じて天候が分かる様ガラス張りにし、外部との視界を広く持っています。毎日が穏やかに、ゆっくりと暮らしながら、その人らしい生き方が出来、明るい笑顔と笑い声が絶えない生活を目指しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「ひまわり」は、自然豊かな郊外の丘の上に建てられた、平屋建て1ユニットのグループホームである。母体施設である併設の軽費老人ホーム、デイサービスと合同行事やレクリエーション、避難訓練を通じて協力関係を築き、利用者のメリハリの効いた暮らしを支えている。併設デイサービスに向い、理学療法士の指導によるリハビリや、法人厨房で作られる旬の食材を使用した美味しい食事を頂き、利用者の状態は改善している。利用者一人ひとりの馴染みのかかりつけ医の受診を支援し、それぞれの先生と関係を築き、法人内看護師、ホーム介護職との連携による迅速な対応により、適切な医療を受けられる体制を整えている。気候の良い時期には、玄関前のテーブルを囲んでお茶会をしたり、季節の花見やドライブに出かける等、戸外へ出かけられるよう努めている。法人合同で行う夏祭りでは、職員が余興を披露する等、築いてきたチームワークを発揮して、利用者一人ひとりの暮らしの支援に取り組むグループホーム「ひまわり」である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者は、皆家族」「弱者には、手を差し伸べる」と言う基本理念を持ち、毎日のミーティングや職員会議で話しあっている。	基本理念を目につく場所に掲示し、職員は日常的に目にする事で、それぞれが理念を確認している。職員は、利用者が穏やかな気持ちで暮らせるよう、利用者の思いを大切にケアに努めている。また、地域との繋がりを意識しながら、利用者と地域を繋ぐ介護サービスを目指している。	職員の思いを集め、法人の理念に基づいたグループホーム独自の目標を作成し、理念をふまえたケアが実践出来ているかを定期的に振り返ることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組に入りイベントに参加している。併設の施設を開放し地域の寄り合い等に利用して頂いたり、災害時の避難場所にもなっている。	利用者と職員は地域の一員として、地域の行事や活動に参加し、併設事業所6階の多目的ホールを、地域の会合や災害時の避難場所として開放している。また、中学生の職場体験の受け入れや、併設の軽費老人ホームやデイサービスとの合同行事で、地域の人との繋がりを感じながら暮らせるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内での勉強会の内容を運営推進会議の席で、報告。参加者の助言を頂きながら地域ぐるみでの支援の方法等を検討している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での利用者様の状態や職員の研修等、運営推進会議で、報告し、参加者の助言を頂き、日々の支援に反映している。	自治会長、民生委員、行政、地域包括支援センター職員参加の下、2ヶ月毎に開催している。会議では、利用者の状況、活動内容、職員研修の報告を行い、その後の質疑応答の中で、参加委員から意見、情報提供を受け、サービスの向上に活かしている。	ホームからの報告が中心となっているので、毎回テーマ(成年後見制度、認知症、災害対策、看取り等)を決めて勉強会を行ったり、地域の高齢者の問題について話し合えるような会議に発展していく事を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際直方市介護保険課の方、包括の方から、情報を提供して頂いたり、分からない事や疑問におもったことは、電話等でも指導いただいている。	管理者は、行政担当窓口へ事故報告を行い、疑問点や困難事例を相談する等、情報交換し連携を図っている。また、運営推進会議に行政や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を伝え、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で身体拘束について学習し、意見を出し合い拘束をしない介護に努めている。	年に1度は、内部研修で身体拘束について学ぶ機会を設け、資料を用意し、身体拘束となる具体的な事例を確認している。また、言葉によって抑制しないよう言葉かけにも注意し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、施設内研修で学び、職員同士で利用者の対応をチェックし、虐待につながらない様、声かけをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度の利用はありません。必要な時は関連行政に相談し、対応したいと考えています。	権利擁護に関する制度についての勉強会を通じて、制度について理解を深めている。資料やパンフレットを用意して、家族から相談があれば、制度の内容や申請方法を説明し、制度の活用に繋げ、利用者の権利や財産が不利益を被らないよう、支援に取り組んでいる。現在、制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改正等の際は説明し、記名、捺印をいただいている。専門用語を控え、分かりやすく説明し、ご家族やご利用者が不安等を話やすい関係づくりを、心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が訪問されたときには、随時近況報告を行い、又、些細な事でも電話で報告をして、要望やご意見があれば話し合い改善に努めている。意見箱を置き無記名にて要望を求めている。	職員は、日常生活の中で、利用者の意見や要望を聴いている。家族とは、面会時にコミュニケーションを取る中で、利用者の健康状態や暮らしぶりを報告し、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、職員間で情報を共有し、ホーム運営や利用者の介護計画に反映出来るように取り組んでいる。	行事は主に隣接の軽費老人ホームやデイサービスと合同で行っているが、家族に案内状を出して参加を呼びかけたり、グループホーム独自で行うイベントを企画し、家族を招待する等、家族への働きかけを強化し、共に利用者を支える関係を築く事が望まれる。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、開催される施設全体会議、グループホームスタッフミーティング、推進会議での意見や提案を報告しより良い施設運営が出来るように努めている。	毎月第4水曜日の15時半から一時間程時間をかけてスタッフミーティングを行っている。会議は、職員が意見を出しやすい雰囲気の中、活発な意見交換が行われている。出された意見や要望は、出来る事から速やかに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、労働時間や休みの希望など、出来るだけ応じ、仕事がやりやすくやりがいがある様な環境づくりに取り組んでいる。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集には、性別、年齢等の条件はつけていない。定年退職後の方でも、様々な経験を優遇して採用する事もある。働く意欲と高齢者を大切に思ってくれる方を優先している。	管理者は、職員一人ひとりの特技を活かした役割分担や、事情を汲んだ勤務体制に配慮する等、職員が働きやすい職場環境となるよう取り組んでいる。また、職員の募集は、年齢や性別、資格や経験の制限はなく、人柄や介護に対する考えを重視して採用し、採用後は、介護技術の向上を目指して、内部研修や現場で教育している。	外部研修の受講や資格取得を奨励し、職員が向上心や意欲を持って働き続ける事ができるような体制作りを期待したい。
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	サービス事業者としての目的、目標を明確にし、「職員も利用者も皆家族」と言う理念のもと自分の家族と思って思いやり、尊重する気持ちを忘れない様に話し合っている。	利用者の人権を尊重する介護について職員間で話し合い、利用者一人ひとりが持っている個性や生活習慣に配慮し、言葉遣いや対応に注意して支援している。また、理念にある、「職員も利用者も皆家族」に基づき、思いやりの心で利用者の安心した暮らしに寄り添う介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を月一回行い意見を出し合い、出席できなかった職員も含め、全員に感想文の提出を義務付け、介護サービスの向上に努めている。外部の研修会の機会があれば確保し、全員に報告している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入している。同業者の施設に訪問したり、電話連絡で相談など行い情報交換している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴の姿勢を忘れず、本人の気持ちを引き出し不安を取り除き、安心感を持っていただけるよう、努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する段階で、本人や家族の希望や思いを聞き不安を無くし、信頼関係を築く様にしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議で、本人、家族が求めている支援が何であるか、問題点はなにかを検討し、ケアプランを作成。それを スタッフ全員が共有しサービスを提供する。分かりやすく家族や本人に示すように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に出来る事は一緒に行い、同じ場所で生活する者同士、協力して日々生活出来る様、努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、電話連絡や、いつでも自由な時間での面談などで、現状報告をし、疑問や希望等お聞きしてし、コミュニケーションを密にとり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や地域の方の訪問がよくある。又、本人と家族が、一緒に地域の行事などの参加の為、外出したりして、これまでの関係の継続を支援している。	家族と一緒に馴染みの場所へ外出したり、ホーム職員が同行してかかりつけ医を受診する等、馴染みの関係を大切にしている。併設の軽費老人ホームからの入居が多いので、合同で行う行事で知り合いに再会したり、日常的にも行き来できる関係であり、利用者が築いてきた人との関わりが、ホーム入居で途切れない支援に取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士と一緒に楽しく過ごせるレクリエーションを提供したり、馴染めない方には職員が積極的にコミュニケーションを図り孤独感を感じない様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も、出来る限り本人や家族の相談に対応し、支援できる体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の意志を尊重し、思いや希望を把握して、それに沿った支援をしている。	日常生活の中で、利用者の思いや意向の把握に努め、記録する事で職員間で共有し、介護サービスに反映させている。食べ物の好き嫌いや、こだわり等、出来る限り本人の思いに添うよう努力している。意志を伝える事が困難な利用者については、家族に相談したり、過去のアセスメントを振り返り、利用者の思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	画一的なサービスを提供するのではなく、生活歴や生活環境等を勘案し、その方に即したサービスを提供出来る様、職員間で情報等を共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意志を尊重しながら、一日の過ごし方を検討している。また定期的にバイタル測定等で体調の些細な変化も早期に発見出来る様努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族とコミュニケーションを密にとり意見や要望、心配な事を聞き取り、サービス担当者会議で職員間で検討し、利用者本位の介護計画を作成している。又状態に変化があった時は、家族と主治医と話し合い介護計画の見直しをおこなっている。	利用者や家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、カンファレンスの中で、職員間で検討し、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。また、利用者の状態変化や重度化に合わせ、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護日誌にその日の状態や変化、気づいた事を記録し、申し送り帳や、ミーティング等で改善策や提案の意見を出しあい、改善に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設併設のグループホームの為、母体施設と連携して行事やレクレーションを提供、し交流を図っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域役員の方々に推進会議に参加して頂き、入居者の方々に状態や希望を聞いて頂き、安全でゆたかな生活が出来る様、協力頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人、家族の希望を大切に、納得が得られるかかかりつけ医と適切な医療を受けられるよう、定期的に受診おつれしている。	利用者、家族の希望を大切に、それぞれの馴染みのかかりつけ医に職員が同行して受診している。(1名は家族対応)往診も可能であるが、受診が外出の機会となるため、職員が同行し、状態変化がある場合は、家族にその都度報告している。それぞれのかかりつけ医と情報を共有し、連携を取りながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より、入居者の体調や病気、服薬等把握し、看護師と連絡をとり、相談し適切なアドバイスを得ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、施設情報を提供している。退院時は病院のソーシャルワーカーや看護師と協力関係を築き、情報を得ている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、本人や家族の意志を尊重し事業所として出来る事を話し合ったり、医師と連携しながら対応している。	契約時に、重度化や終末期の方針について、利用者、家族の希望を聴き取り、ホームで出来る支援について説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と密に連絡を取り、主治医の意見を聞いて方針を決定し、職員全員で共有して、利用者の終末期が安心して過ごせるよう、最善を尽くしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、職員には、日々確認してもらい、毎月の会議のとき、話し合っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時及び、非常災害時のマニュアルを作成。それに沿って避難訓練を実施している。また同一敷地内にある系列施設や、地域の方にも推進会議でお話し、協力を依頼している。	年2回、併設事業所と合同で、地震想定を含めた避難訓練を実施している。避難経路図、緊急連絡網、マニュアルを整備し、隣接事業所職員と、非常時の協力体制を確認している。災害時に備え、非常食の備蓄は、法人厨房で一括して行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生活歴や生活に合わせプライドを確保されるように声の大きさや対応に注意し、羞恥心に配慮した介護をこころがけている。また利用者の個人情報の記録や保管や職員の守秘義務についてもミーティングで話しあっている。	利用者の誇りやプライバシーに配慮した介護について、ミーティングの中で話し合い、意識づけを行っている。利用者に合わせた声掛けや対応を工夫し、利用者のプライドや羞恥心に配慮した排泄や入浴の支援に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても、職員間で話し合い、情報漏洩防止の徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員中心になりがちな事柄だけに、訴え出来ない方の表情、行動を把握し、寄り添って自分の思いが出せる様な雰囲気作りをしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ペースにならない様個々のペースに合わせたケアを目指している。本人、家族の希望に沿って面会時間、外出時間、外泊も自由に制限していない。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、鏡に向かう時間を作っている。化粧される方には、して頂き、着替えも本人と相談しながら行っている。 月一回出張の散髪に来ていただき、希望される方には、利用して頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼や嚥下に配慮し楽しみながら嚥下体操を実施している。法人厨房から食事が提供されているが、個々の摂取状態に合わせて軟飯・粥・刻み等、配慮している。	併設事業所厨房から配食し、温冷トレイにて、熱いものは熱く、冷たい物は冷たい状態で、味や彩り、形状に配慮した美味しい食事を提供している。早出の職員が検食を行い、検食簿を付けて厨房に伝え、改善に取り組んでいる。職員は弁当持参で利用者の間に座り、一緒に談笑しながら食事の時間を楽しく過ごしている。また、毎月、手作りおやつ作りにも挑戦している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェックを毎日記録し、一人ひとりの状態に合わせ、栄養士の作った食事を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯洗浄を行っている。自力で行えない方は、介助で磨きなおし、義歯洗浄やうがいをおこなっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、個々の排泄パターンを把握し、声かけや、誘導を早めに行い、もし、失禁しても羞恥心に配慮して声かけをおこなっている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングをみて声掛けや誘導を行い、失敗の少ない排泄の支援に取り組んでいる。また、利用者に合わせて、オムツやパットの種類や当て方を工夫している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘状態を記録している。 朝の体操や散歩、水分補給にも心掛け、出来るだけ便秘にならない様、医師にも相談している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を基本とし、利用者の希望やその日の体調に配慮し、楽しい入浴が出来る様支援している。	入浴は週2回を基本とし、利用者の体調や希望に配慮しながら、1日3人ずつ、3、40分時間をかけてゆっくり入浴出来るよう、支援に取り組んでいる。また、入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、職員が交代して声掛けする等、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムはほぼ確立しているが、夜よく眠れるよう、レクリエーションや程よい運動等行い昼夜逆転しない様につとめている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は誤飲を防止するため、名前・日時・朝・昼・夕・眠前とわけて保管し、食事ごとに直接本人に飲ませている。変更があった時は介護記録、申し送り帳に記入し、全員で確認している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、日常生活の中から、役割分担が自然にできあがっている。レクを楽しむ人、おしゃべりや散歩を楽しむ人、自由に過ごしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごと、お花見や、地域の行事等でドライブし気分転換を図っている。又園庭でお茶やおやつをよく食べている。	気候の良い時期には、自然に恵まれた周辺の散歩や、屋外でのお茶会で外気浴を楽しみ、利用者の気分転換を図っている。また、併設事業所を訪ねたり、病院受診、季節毎の花見やドライブ等、利用者が戸外へ出かけられるよう、取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望により本人が管理している方もいるが、殆ど、家族が行ったり、依頼を受け職員が買い物をする事もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をかいて、出されることはほとんどないが電話の取次ぎはおこなっている。また、携帯電話の所持は許可しており自由に家族と話している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節に応じた花や写真がかざってある。空気調和設備を整え空気の流れを作っている。	吹き抜けの高い天井からの採光で明るく開放的な共用空間では、利用者が職員の音頭で体操をしたり、歌を歌う等楽しく過ごしている。掃除の行き届いた清潔な環境を整え、観葉植物や生花を飾り、季節感、生活感を大切に環境作りに取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室には、自由に行き来できるようにしている。又リビングでは、気の合ったもの同誌が隣り合わせになる様留意している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使われていた生活用品や好みの物、写真等を居室に置き、本人が心地よく過ごせるようにしている。	利用者が使い慣れた筆筒や机、椅子等の家具や家族の写真等、大切な物を持ち込んでもらい、その方らしい部屋となるよう配慮し、利用者が安心して過ごす事が出来るよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや入浴等出来る限り自分で出来る様に施設内の環境に努めている。自立心無くさず、安全に生活出来る様施設内の環境整備に努めている。		